

『人々の記憶に遺す方法』

一昨年、2011年3月11日の金曜日午後2時46分、三陸沖を中心とした大きな地震が起きました。これは後に『東日本大震災』と呼ばれる様になりました。しかし、そんな地震や津波の恐怖が薄れてきています。これ以上薄れない様に自分なりに考えてみました。それでは、どの様にして後世に伝えていくかです。まず、言葉で伝える方法です。震災を体験した人が言葉で伝える事よりも説得力のあるものはありません。しかし、言葉は伝えられる限度があります。いずれ震災を体験した人が全員亡くなる時がきます。その時にやはり言葉だけでは、被災した情景が想像できなくなります。そこで便利なのが映像です。文章だけでなく映像を見ることによって被災した情景が理解できます。ですが、まだ映像だけでも地震の恐ろしさや津波の威力がわかりません。そこで僕の考えは、テレビ等でも取り上げられている被災した建物を遺すという考えです。実際に被災した建物を見る方が映像ではわからない本当の恐怖や悲しみや苦しみ痛み等が、とても言葉では言い表す事の出来ない様な体験が出来ます。それはどんな立派な文章よりも、どんな映像よりも深く心に残ると思います。しかし、それを実現させるとなると膨大なお金が掛かります。毎日遠くから汚れる度に掃除をしに来なくてはいけなくなり、やがて、年をとり次の世代へ、また次の世代へと続けていかなければなりません。しかし、今回の大災害はそれだけのデメリットがあっても、それよりもとても大きなメリットがあります。例えば、原爆ドームがそうです。原爆ドームがあるからこそ日本人は『戦争は絶対してはいけない。』『戦争は怖い。』と、今まで人々の心に深く刻まれてきました。この様にもし、被災した建物をひとつでも多く遺せたら…。これからの日本人の心に『地震は、津波は恐ろしい…。』と、刻まれていくのではないかと僕は強く思います。最後に、東日本大震災で亡くなられた方々へのお悔みを申し上げると共に、この事をずっと後世に伝えていく事を約束します。

平成25年8月 石巻市蛇田中学校2年 只野 哲也

